

事務事業名		佐野市に関する美術作品等調査研究事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	4 豊かな心を育む教育・文化づくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	吉澤記念美術館
	政策	2 生涯にわたり学びのあるまちづくり						担当係		担当課長名	金原 隆徳
	施策	2 歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進						新規事業・継続事業		継続事業	
	基本事業	3 文化・芸術に触れる機会の充実						実施計画事業・一般事業		一般事業	
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14966	一般	10	4	7	佐野市に関する美術作品等調査研究事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立美術館条例				
							任意的事業・義務的事業		任意的事業		
							実施方法		直営		
						事業分類		その他市民に対する事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
各種資料の収集や、美術館所蔵作品及び佐野市ゆかりの美術作品等の調査研究を行う。その研究成果を、展覧会展示に活用する。			①所蔵作品・収蔵品の調査及び整理 ②佐野市関連作品の所蔵家訪問調査・各種問合せ対応 ③関連資料の収集・調査・・・松本姿水に関する作品調査等							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			展示用資料購入・寄贈寄託受入点数	件	50	6	10	10	10	
			研究用図書購入・文献複写資料収集件数	件	26	380	100	100	100	
			実地調査件数(関係者訪問等)	回	20	7	15	15	15	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
・美術館収蔵品(所蔵品・寄託品・借用品) ・訪問調査等を行った佐野市に関する美術作品及び関連資料			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			美術館収蔵作品数	点	648	654	660	648	648	
			収蔵品以外の美術作品調査数	点	150	105	110	50	50	
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
①佐野市関連の美術作品及び収蔵品に関する情報収集により、各作品の芸術的・歴史的意義を明らかにする。 ②研究成果を展覧会展示や解説パンフレット・図録などにより広く公開する。 ③他館での展覧会に当館所蔵作品を貸し出すことにより、作品の存在や歴史的位置づけ、さらに当館の存在等を広める。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			展覧会で新しい情報を提示できた作品数	点	233	94	100	100	100	
			解説パンフレットや図録などの発行回数	回	2	2	1	1	1	
			所蔵作品の他館への貸出数	点	13	20	5	5	5	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
佐野市に関する作品等の調査を重ねることにより、企画展のさらなる充実を図り、文化・芸術に触れる機会の充実を図る。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			郷土博物館、吉澤記念美術館等入場者数	人	64,940	63,398	52,000	52,300	52,700	

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	167	112	179	179	179			
	事業費計(A)	千円	167	112	179	179	179			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償物資費	8	報償物資費	1	報償物資費	20	報償物資費	20
			費用弁償	30	費用弁償	4	費用弁償	18	費用弁償	18
普通旅費			21	普通旅費	14	普通旅費	18	普通旅費	18	
消耗品費			42	消耗品費	48	消耗品費	48	消耗品費	48	
印刷製本費			0	印刷製本費	5	印刷製本費	5	印刷製本費	5	
通信運搬費			25	通信運搬費	12	通信運搬費	12	通信運搬費	12	
手数料			4	手数料	8	手数料	13	手数料	13	
庁用器具費	37	庁用器具費	37	庁用器具費	45	庁用器具費	45			
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1			
	のべ業務時間	時間	100	100	100	100	100			
	人件費計(B)	千円	389	394	394	394	394			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	556	506	573	573	573			

事務事業名	佐野市に関する美術作品等調査研究事業	担当部	教育総務部	担当課	吉澤記念美術館	担当係	
-------	--------------------	-----	-------	-----	---------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成13年度美術館開設準備室の設置に伴い開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	市庁舎等の建設により、市の財政状況は一層厳しさが増しているため、事業費削減に努めている。 美術作品を収集してきた方が高齢になり、作品の調査依頼が増えてきている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	催事のアンケートなどで、「市立美術館として、市内全域にある美術品や、市に関係した作家の作品も収集展示してほしい」との要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(コストの見直し)	平成24年度から引き続き、学芸員資格を持った臨時嘱託員を任用することで学芸員2人体制とし、調査研究にかかる時間を確保するようにした。 東京文化財研究所との伊藤若冲《菜蟲譜》にかかる共同研究が終了したため、費用弁償予算を削減した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	佐野市に関する美術・文化に関する調査を行うことは、佐野市立美術館条例の趣旨に沿うものであり、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	文化遺産は地域全体の物であるという、公共性・公平な評価の必要性という観点や、博物館法や佐野市立美術館条例においても事業として規定されていることから、市が行うことは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	現在の当館所蔵品はほとんどが1個人の寄贈によるものであり、佐野市関連の作品の比率は高くない。佐野市に関する美術作品及び資料の調査研究を行うことは、さらに魅力のある美術館に発展させるためには妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	調査研究にかかる時間を今以上に確保することにより、さらに成果の向上は見込める。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	調査研究のための図書購入費が主な内容であり、これ以上の削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	研究の成果の公表場所である展覧会で観覧料を徴収している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
	作品調査や研究が実施できなくなると、その成果を展覧会展示に活かすことができなくなり、展覧会自体の魅力が失われ、集客が図れない可能性がある。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																		
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 引き続き、学芸員の調査研究に係る時間を確保する。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下	×	×	学芸員の調査研究に係る時間を優先的に事務配分する。
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	